

今年を振り返って

～平成30年 静岡市の主な出来事～

1. 災害から市民の生命や財産を守る！

～清水区の新たな災害拠点施設、「港北消防署」が完成～（3月）

湾岸消防署を建て替え・移転した港北消防署が完成しました。

港北消防署は、東は蒲原から西は袖師まで、南は清水港から北は山梨県境までのエリアをカバーし、南海トラフ巨大地震等の大規模災害時の拠点施設としての機能を備え、新東名や中部横断自動車道上で起こる災害にも迅速に対応できるようになりました。



2. 次世代へ継承する静岡市の誇り！

～「静岡水わさびの伝統栽培」が世界農業遺産に認定～（3月）

静岡の伝統的な農法「静岡水わさびの伝統栽培」が、世界農業遺産に認定されました。

世界農業遺産は、伝統的な農法や農村文化を守るために国連食糧農業機関(FAO)が認定する制度です。わが国のわさび栽培は約400年前に葵区有東木地区で始まったのが最初とされており、豊かな湧水を使う伝統的な栽培方法が、若手生産者へ受け継がれていることが高く評価されました。



3. イベント情報片手にちょっと遠くへ出かけよう！

～しずおか中部5市2町イベントニュース「GOTO」^{ゴートゥー}創刊～（4月）

静岡県中部地域5市2町(静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町)のイベント情報を掲載するイベントニュース「GOTO」を創刊しました。

GOTOを見た人がそれぞれの市町のイベントへ出かけることで、地域経済の活性化に繋げるために、約35万部をこれまでに3回、新聞折り込みで各市町に配布しました。



4. 国際海洋文化都市・清水を目指す！

～「海洋文化都市推進本部」設置、「清水みなとまちづくり公民連携協議会」発足～（4月）

みなとまちづくりを総合的・横断的に推進する静岡市の新たな組織として、「海洋文化都市推進本部」を設置しました。

また、ウォーターフロント等の開発やエリアマネジメントを進めるため、県、市、関係企業による「清水みなとまちづくり公民連携協議会」が発足しました。

今後、様々なまちづくりの担い手が連携し、国際海洋文化都市・清水の実現に向けて取り組んでいきます。



5. 「子育てしやすいまち」から「子どもがよく育つまち」へ！

～待機児童ゼロ達成と静岡市型部活動システムで進む部活動改革～（4月）

4月に待機児童ゼロを達成しました。

平成 25 年から、保育定員の拡大に取り組み、幼稚園の認定こども園への移行や保育所の新設などにより、約3,800人分の定員拡大を成し遂げました。

また、部活動の活動日のあり方や外部人材の活用を盛り込んだ「中学校部活動ガイドライン」を全国に先駆けて策定し、実践を行っています。効果や課題を検証し、平成 31 年8月の本格実施を目指しています。



6. スポーツやレクリエーションの新たな拠点！

～「駿府城ラン・アンド・リフレッシュステーション（R&R）」オープン～（5月）

ランニングなどを楽しむ人の交流の場、まち歩きの中にも気軽に寄れる施設として、駿府城公園に隣接する中央体育館敷地内に「駿府城ラン・アンド・リフレッシュステーション」をオープンしました。

スポーツを取り入れたライフスタイルをデザインするとともに、賑わいあるまちづくりの拠点として、ランニングクリニックやヨガ教室、駿府城公園中堀での SUP(サップ)体験会を開催しています。



7. 「^{しょうおうこうらい}彰往考来」歴史を振り返り市の未来を展望！

～市長と市民が語り合う「しずおか まちづくりセッション」開催～（5～7月）

平成 31 年度からの第 3 次静岡市総合計画に、市民の皆さんの声を反映するために、葵区と駿河区で 11 回にわたって「しずおか まちづくりセッション」を開催しました。

これまでの先人の歩みを振り返る映像を見た後、5大構想や SDGs(国連の掲げる 17 の持続可能な開発目標)について市長自らが説明し、静岡市の未来について、市長と市民が語り合いました。



8. 市民 50 年の悲願成就の第一歩！

～井川地区へのアクセス道路「県道 三ツ峰落合線」にトンネル新設決定～（6月）

市街地と南アルプスユネスコエコパークにある井川地区とを結ぶ「県道 三ツ峰落合線」へのトンネルの新設が決定しました。

井川村合併当時の悲願であった市街地と井川間の所要時間を 20 分短縮するこのトンネルの新設により、観光客数の増による経済の活性化も大いに期待できます。



9. お互いを支え合う「健康長寿のまち」へ！

～駿河区に地域福祉共生センター「みなくる」オープン～（6月）

駿河区の南部図書館2階に『静岡市地域福祉共生センター「みなくる」』をオープンしました。

「生涯活躍のまち静岡(CCRC)」の駿河地域モデルの核であるこの施設を拠点に、社会福祉協議会や県立大学と連携して、地域の様々な団体や多世代が交流・共生する場を提供することで、お互いを支え合う「健康長寿のまち」づくりを進めます。



10. 市長、ニューヨーク国連本部で世界へスピーチ！

～SDGsのトップランナー SDGs未来都市・SDGsハブ都市に選定～（6、7月）

日本を含む国連加盟国が全会一致で採択した「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」を市政に組み込むことを、国連本部で世界に向け宣言しました。

本市の取組は国連から高い評価を得て、世界にSDGsを普及する役割を担う「SDGsハブ都市」にアジア諸国で初めて選ばれ、日本政府からは「SDGs未来都市」に認定されました。

これからは、プラスチックから環境負荷の低いストローへの転換を促すことで海洋ごみ問題の解決を目指すなど、具体的な行動を起こしていきます。



11. 全国 No 1 の“おもてな市”へ若手職員の挑戦！

～市民目線で誰一人取り残さない。「おもてなしコンシェルジュ」スタート～（8月）

自ら手を挙げた若手職員 14 人を、市役所にいらっしゃった方に積極的に声を掛け、案内や付き添いを行う「コンシェルジュ」として、原則、静岡庁舎1階フロアに配置しています。

月曜日と金曜日の午前 10 時から正午まで、試行的に配置しています。今後、市職員全員がコンシェルジュのように、おもてなしの心を備え、市民の皆さんに寄り添った対応とサービスが行えるよう、この取組を活かしていきます。



12. 地元高校生が大活躍！

～全国高校総体（インターハイ）27年ぶりの市内開催～（8月）

全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が、東海ブロック4県（静岡・三重・愛知・岐阜）を舞台に開催され、市内では、草薙総合運動場体育館（このはなアリーナ）で、体操競技と新体操が行われました。

また、選手以外の地元高校生も、出場選手を紹介する新聞の発行や会場での呈茶サービスなどで、地元開催を盛り上げました。



13. 市民の誇り！さくらももこさん、初の市民栄誉賞に決定

～寄贈されたちびまる子ちゃんマンホールの蓋を2か所に設置～（9月）

「ちびまる子ちゃん」の作者、清水区出身のさくらももこさんは、30年以上にわたり、作品を通じて本市のイメージアップに貢献するとともに、シティプロモーションにも協力をいただきました。

生前、さくらももこさんから寄贈いただき設置した「ちびまる子ちゃん」マンホールの蓋を見るために、JR清水駅前と新静岡セノバ前を、数多くの方々が訪れています。

このような功績を称え、本市初となる「市民栄誉賞」の贈呈を決定しました。



14. カヌヌ市との絆を新たなステージへ！

～カヌヌ市長 20 年ぶり来静、政策研究に関する覚書を締結～（10 月）

姉妹都市フランス カヌヌ市のダビッド・リスナル市長が 20 年ぶりに来静し、三保羽衣薪能などを視察しました。

さらに、両市の関係をいっそう強化発展させるために、防災や観光・文化といった互いの得意分野の政策を学び合うことで、ともに持続可能なまちづくりを目指す「政策研究に関する覚書」を締結しました。



15. 世紀の大発見！幻の城を「歴史文化のまち」の追い風に

～家康公の駿府城跡から豊臣の天守台・金箔瓦が出土～（10 月）

駿府城跡天守台の発掘調査現場で、金箔で装飾された瓦 330 点と家康公の駿府城とは異なる天守台の石垣が見つかり、専門家による検証の結果、家康公の駿府城の内側に豊臣秀吉が築かせた豪華絢爛な城があったことがわかりました。

今川・徳川の拠点が置かれていた駿府で、豊臣の城跡が見つかったことは、駿府の地が歴史上重要な場所であったことを示しています。



16. 呉服町に葵おまち地区の新たな顔が誕生！

～再開発ビル「札の辻クロス」完成、官民連携のまちづくり加速～（10 月）

静岡呉服町第二地区市街地再開発ビル「札の辻クロス」が完成しました。

地上 13 階建ての建物には、商業店舗、音楽公演やパーティーなどでもできるホール、有料老人ホームがあり、店舗への来客、地域住民、老人ホーム居住者等の交流の場としての役割を担うことが期待されます。



17. 日本平山頂の新たな賑わいスポット！

～360°の眺望「日本平夢テラス」、県市連携でオープン～（11 月）

日本平山頂部に、県と市が一体的に整備してきた「日本平夢テラス」がオープンし、富士山や駿河湾、三保松原など 360 度の眺望を楽しめる新たな観光スポットとして、オープン初日から1か月で来場者数が 10 万人を超えました。

また、日本平山頂からの夜景などが評価され、2019 年日本夜景サミットの開催が決定しました。



18. 静岡市・由比町合併 10 周年

～市長と住民が由比の未来を語り合う「ゆいゆい（由比結）トーク」開催～（11 月）

静岡市と由比町は、合併 10 周年を迎えました。

市長と住民の皆さんが由比の未来について意見を交わす「ゆいゆいトーク」や「由比街道まつり」、「由比港浜の市」の同時開催などにより、地域全体で合併 10 周年を大いに盛り上げました。

一方で、由比さらには静岡のオンリーワンブランドである「桜えび」の不漁が続いており、官民が一体となった対策を講じることが急務となっています。



19. 東西交通の流れがよりスムーズに！

～国道150号中島高架橋・県道駒越富士見線開通、国道1号静岡バイパス4車線化～（3・12月）

沿岸部を結ぶ国道150号では、全長1,150mの「中島高架橋」が開通しました。

この開通により、東名静岡ICと清水港との物流ネットワーク機能が強化されるとともに、日本平や久能・三保地区への観光アクセスが向上し、また、緊急輸送道路としての防災体制強化にも繋がっています。さらに、事業着手から50年、ついに国道1号静岡バイパスが全線で4車線化し、開通します。



20. 世界水準の自転車都市にまた一歩！

～『KEIRINグランプリ2018』初開催～（12月）

今年で34回目となる『KEIRINグランプリ』が、静岡競輪場で初めて開催されます。

KEIRINグランプリは、これまでは首都圏を中心に開催されてきた、その年のG I 優勝者と年間賞金獲得上位者の9名で争われる競輪界最高峰のレースです。

「自転車サポーター制度の新設」「県内初の自転車交通安全指導員の配置」「こども園での自転車安全教育」といった世界水準の自転車都市を目指す取組の、今年の締めくりにふさわしいイベントです。



以上全20件